

# 音の心理学 予告編

～T教授の研究資料から～



2008.11.15 タツノオトシゴ

さて、今月はお休みをしているはずのタツノオトシゴですが…  
来年に向けて、チョッと予告編を出しておきます。(^^)

建築から福祉、福祉から環境へと、世の中の動きに合わせて動いています。  
そんな私が、長年追いかけているテーマは、『音の心理学』です。  
うさおさんの領域へ石を投げ込むことで、波紋を起こそうと目論んでいます。

前回のシリーズは、『嗅覚』を伏線にして組み立てましたが、今回は『聴覚』なのです。  
クラシック音楽の中でもオラトリオや歌劇（オペラ）が大好きなタツノオトシゴは、旅行  
先でホテルにチェックインする前に劇場のチケットを探し回ります。その頃は、建築と音  
響と言う接点を中心に見ていましたが、最近は違った観点から『音』を聴きます。

福祉分野で心理学を学び、児童の発達課題と言うテーマに遭遇した時、「ライフワーク  
として研究すべきテーマはこれではないのかしら？」という予感がありました。自分が育  
ってきた経験や、現在社会の抱える課題などを調べていくうちに、『音』が人間の心理に  
どのような影響を与え、人間の成長に係わる事例を研究したくなりました。

まだ仮説の段階なので、この場を借りて研究の整理をしたいと思っています。  
脳の働きの中で、『視覚』、『嗅覚』と比べると『聴覚』の仕組みは割とシンプルです。  
「言語野」といわれる部分の働きも特定し易く、研究しやすいと思われる割には研究事例  
が少ないような気もしています。（勝手な想像ですが…）

小さな時にお経の世界の中で育ち、関西から関東へと引っ越した経験も踏まえ、人間の  
コミュニケーション力の構築されていくプロセスを実感しています。今は、関西の某合唱  
団のメンバーとして、ザ・シンフォニーホールの舞台に立つ楽しみを求め努力しています。  
そして、「合唱は究極のコミュニケーションである！！」という指導者の理念に共感し、  
先生方の発声練習や声楽指導に感謝しながら、毎回を楽しみに練習に励んでいます。

もう一つ、釜ヶ崎（あいりん地区）で生活していた、ホームレスのピアニストとの出会  
いが、今回のテーマ設定の伏線になっています。阪神淡路の大震災後、ホームレス生活  
を送らざるを得なかったピアニスト合田清さんは、大きな夢を抱いています。その夢を支  
援するために、「音と心理」をテーマに対談の企画もしています。

さて、次回から始まる新しいシリーズ、何処まで続くかお楽しみに (^^)／